

大内経営労務事務所

経営と労務管理の最新レポート

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-10-1 六川ビル4階

03-3264-6881 fax 03-3264-6882

上司の考え方によって部下の行動が決まる

2014/1/11 付

日本経済新聞 朝刊



労働時間が長い人ほど、自らの残業を上司が評価していると考える割合が高い——。内閣府が実施したワークライフバランスに関する意識調査でこんな傾向が分かった。

調査は2013年9月に実施。20~50代の正社員の男女計2537人が答えた。

上司が残業をどう考えていると思うかを複数回答で尋ねた質問では、「頑張っている」と肯定的に評価されていると答えた割合は、1日12時間以上働いている人で53%に上った。12時間未満では48%、10時間未満では38%だった。労働時間が長いほど「責任感が強い人」「仕事ができる人」と評価されていると思う割合も高かった。

逆に「仕事が遅い」と否定的に受け止められていると考える割

合は、10時間未満で37%と高かったのに対し、12時間以上は26%にとどまった。

別の質問で企業に、残業や休日出勤をせず、時間内に仕事を終えて帰宅することをどう人事評価しているか尋ねたところ、約千社のうち74%がプラスにもマイナスにも考慮していないと答えた。

多くの企業は残業の長短を評価の対象にはしておらず、内閣府は「上司が評価していると思うと残業時間が長くなる傾向がある。管理職などが率先して、時間内で仕事を終えて帰りやすい職場の雰囲気をつくることが必要だ」としている。

この内閣府の調査を見ると部下は上司の考え方をよくみていることがわかります。

管理職の言動、態度、行動を観察して、自分の行動を決めていることになります。別に意識的に観察しているわけではないでしょうが、管理職は常に見られており、その影響で部下が行動していることになります。

この調査では年次有給休暇の取得しやすさはどうか?というものも行っています。

ここでも管理職の考え方には影響されています。具体的には、上司の「有給取得者」のイメージが「仕事に対する貪欲さ・熱意が少ない人」「仕事より自分の予定を優先する人」という場合、有給は取りづらいと感じる割合が増えています。

逆に「時間管理が上手な人」「オン・オフのメリハリがある人」をイメージしている上司のもとでは、取りやすいという結果になっています。

「長時間労働社員から見た職場の雰囲気」という調査もあります。労働時間の長い人ほど、「一人あたりの仕事量」「突発的な仕事」「締切に追われがち」など業務体制に課題を感じています。逆に、「仕事の手順などは自分で工夫しやすい」「仕事が終われば周りの人が残っていても退社しやすい」とは感じていません。

管理者、責任者によって職場の雰囲気が変わるとと言われますが、そのような結果になっています。